

JAITI 56

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.or/> ◆E-MAIL jaiti@janis.or.jp

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発 行 公益財団法人 日本農業研修場協力団
事 務 所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

今日のジャイチ

世相を反映した漢字に「災」の字が書かれました。豪雨・地震・火山噴火などなど、矢継ぎ早に日本列島を襲い各地で大きな爪痕を残しました。それに加えて、観測史上初めてと報道された猛暑。近年、スケールの大きな災難が日常化してくるような状況です。そして、南海トラフとやらが牙をむく日も近いとのこと。ネパールでは、雨季と乾季がはっきりしていて年の半分が雨が降る降らないという気候になります。5月頃から始まる雨季では、大雨による洪水が時々発生し所々で土砂崩れや浸水による被害も多く報告されます。カカニ・ブライター学校でも、土砂崩れによる道路の損壊によって通学が困難となり、しばらくの間休校しなければならなかったり、生徒を一時学校の施設内に寄宿させて授業を続ける措置を取ることがありました。災害時によく語られる「人命第一は、いずこも同じこと。ネパールの大地震から4年、ネパールの人たちも記憶が薄れないような心がけて行くことが大切になります。



▲雨の日が続く、寄宿舎で仲間と勉強に励むカカニ・ブライター学校の生徒たち

変る教育制度の中で

◆レカリ・バシファント学校では、3月に行われた開校25周年記念事業以降も着々と、教育環境の整備が続けられています。

平成24年にジャイチから地元に移管し公立学校としての運営になった当学校は、学校運営委員会が中心となつて学校づくりが進められており、政府もモデル校としての位置付けを念頭にこれらの整備にあつての財政的支援が行われています。

これまで、公立の学校では幼児教育を行うケースはあまりありませんでしたが、公立学校でもECE ED(※1)と呼ばれる幼稚クラスの併設による教育が進められるようになってきたことから、バシファント校においても、これらに対応するために、ネパール国内で活動しているプラン・インターナショナル・ネパールの支援を受けて、幼稚クラスの教室、図書館をはじめ、各教室へ書棚を配置するなど、児童・生徒たちが楽しく学ぶことができるよう一段と取り組みを強めています。

※1 Early Child Education Development

▲バシファント学校に建設された図書館と幼稚クラスの教室



学年ごとの生徒の構成が悪くなっています。学校の授業は勿論ですが、高学年が主体となつて行っているスポーツイベントや各種催し物の運営にも影響がでることが懸念されます。

◆以前から幼稚クラスを設けて運営されているカカニ・ブライター学校には、現在280人ほどの生徒が在籍しています。開校時から数年前までは300人規模の生徒数を数えていましたが、教育制度の変遷や周囲の学校の影響等もあり、最近では200人程度にまで減少し学校の運営にも大きな影響を及ぼす事態となってきました。

この様な事態を打開するため、特に入学前の子どものための受入れに力を注いだことから、生徒数では回復の兆しを見せています。しかし、280人の生徒数のうち4割以上となる120人が幼稚クラスで、中・高学年は45人程と少なく、

このように、幼稚クラスが各学校で位置づけられてくることに伴い、これらを受け持つ教職員のための研修を進めて行くことが必要のため、バシファント学校・ブライター学校では、既に、幼稚園の運営に携わっているバネパ市にあるひかり幼稚園との交流を通して、指導方法などを学んで行くことにしています。



▶ブライター学校の幼稚クラスで授業の進め方などを熱心に検討するスタッフの皆さん

ジャイチネパールから

ブライター学校で 楽しく文化祭開催

ネパールの大きなお祭りの一つであるティハルにあわせて、11月6日、カカニ・ブライター学校ではカカニ村が主催して文化祭が盛大に開かれました。

このイベントは、生徒たちの学校での日頃の学習の成果を保護者や地域の皆さんにも知っていただくよい機会になりました。
プログラムでは、民族舞踊や劇などを異なる学年の



▲ブライター学校の校庭に設けられたステージで民族舞踊を発表する女子生徒のみなさん

生徒たちが一緒になって上手に演ずる場面もあり、参加したおよそ220人の保護者や招待者、他の地元の方々がこの素敵なイベントを楽しみました。

プログラムの中で、あいつつに立ったカカニ村のマン・バハドール・ラマ村長さんからは、現在は未舗装のため、降雨により路面の土砂流亡が激しい学校の玄関口までの道路を、可能であればアスファルトかコンクリート舗装にしたいとの話がありました。

もし、本当に実現すれば、これは大きな成果です。

また、ジャイチ・ネパールのチーフアドバイザーであるビム・ラル・グルンさんが、よりよい教育学習環境のために、JAITIは常に学校状況の改善に専念していることを話しました。
(ビム・ラル・グルン)

パンフアント校で 幼児教育の取り組み

子どもたちの発育過程において、早い段階から適切な教育サービスが求められています。

このためには、学ぶための効果的な教材が必要となります。

そこで、ネパール国内でINGOとして活動しているプラン・インターナショナル・ネパール(PIN)の支援により、レカリ・パンフアント学校では幼児教育のための環境整備を進めています。

これまでの教室はコンクリートの床のため、冬場は非常に冷たい環境で授業を受けなければなりませんでしたが、この床をプライバシーボードでカバーし、その上、灯油ヒーターも備えるようにしました。



暖房器具や給水機が設置されたECEDの教室

こうした環境を整えることにより、楽しく学習する習慣を育てることもつながっています。

現在、このクラスには14人の児童が一般的な教科や生活に必要な社会的マナー

などについて学んでいます。が、小学校に入学する前の4歳から5歳のプレスクールの児童グループであるこのECED(1P参照)は、幼児期の感情的、社会的および身体的発達に非常に良い影響を与えることでしよう。

これらの整備に要した費用、805,000ルピーはプラン・インターナショナル・ネパールからのサポートによるもので、現在、児童たちは、歌やリズムの学習を楽しんでいます。



プライバシーボードでカバーされて暖かい床になりました

しかしながら、学校には幼児教育のノウハウを十分に有した教職員がいないため、このクラスをいかにスムーズに実行していくかが課題となっています。

今後カカニ・ブライター学校と同様に、指導体制の充実に向けて、教職員の研修に取り組んでいくことにしています。
(ビム・ラル・グルン)

オーガニックで 健康に

近年の健康志向の高まりの中で、ネパールにおいても、農薬を使わない、化学肥料に頼らず有機肥料を主体とした農産物生産に取り

組もうとする農業者を多く耳にします。

バネパ市に住むカルバナ・ティミルシナさんもそうした一人で、国連の機関でオーガニックに係わった経験を活かそうと、自宅近くの農地で有機農産物栽培を行う傍ら、こうした取り組みを広く他の農業者にも理解してもらおうと活動しています。

こうした活動の一環としてカルバナさんたちのグループでは、カカニ地区の皆さんにオーガニックを学んでもらうために、カカニ実験農場を活用してモデル圃場として、プロジェクトを始めることにしたいと準備を進めています。



▶自宅近くの農場で有機栽培を熱く語るカルバナティミルシナさん

ボランティアでネパールの人々と

自分でできること。こんなことをしてみたら。など、ご自身の可能な分野で、ネパールの人々のために、ボランティアで協力してくださる方々がいます。

折り紙で日本の文化を

9月中旬、カカニ・ブライター学校を訪問した田山豊實さん（東京都品川区）は、生徒たちと折り紙をして、楽しく過ごしました。年に1回はネパールを訪問している田山さんは、その都度、ジャイチが支援する学校を訪ねて、生徒たちに日本の文化を伝える活動をしていただいています。



田山さんの指導で新聞紙を折りたたんでカブトの出来上がり

この日も新聞紙でカブトを折ったり紙飛行機を作ったり飛ばしました。

また、お互いに相手の顔の絵を描くことや、9・10年生には将来の夢を語ってもらいました。

学校を卒業しても海外へ働きに出ていく若者が多いことから、地域で活躍してくれたり、農業にも目を向けてくれることを田山さんは願っています。

環境整備にリベンジ

2年程前からジャイチの学校の環境整備に取り組んでいる滝和美さんと小園四男さんのグループは、今年度も2つの学校で7月と11月の2回に亘って作業を行いました。

レカリ・バシフアントでは学校が一望できるビューポイントで、樹木の生長に伴って眺望を妨げている立木を取り除いたり、教室周辺の倒木が心配される支柱木の伐採整理を行い、カカニ・ブライター学校でも同様の作業に汗を流しました。前回、現地で購入したチェンソーでしたが、エンジンや不具合続きで能率も上

がらなかったことから、今回は日本製の機械を調達して使用できたことから、順調な仕事運びとなりました。さすが、日本製は信頼がおけるとの感想でした。



ギヤルゼンさんにも手伝ってもらって支障木を伐採する小園さん

絵本の読み聞かせ

鎌倉 恵子

普段、広いスペースで多人数の時や絵本が大きく重い時は、読み手と見せ手と2冊絵本を用意するか、読み手はコピーを読み、見せ手は目の弱い高齢者のことも考えて絵を大きく見えるように工夫していますが、今回のネパールの学校でも、英訳した日本の絵本2種とそれぞれのコピーを用意してゆき、初めの部分だけ自分で読んで、あとは生徒たちに見せ手と初見での読み手をやってもらうこと

にしました。

読み聞かせの経験がないネパールの人たちに、やり方を伝えるのに少し時間がかかりました。そして、実施する学年は、それぞれの学校の校長先生に選んでいただき、最初に行ったブライター学校では、作品も校長先生が選びました。

11月20日、レカリ・バシフアント学校の7年生が新美南吉の「てぶくろをかいに」に挑戦。はじめての英語にかなり苦労する生徒もあり、校長先生や英語の先生に助けられ何とか終わりまで読みました。ただ、内容を理解するには難しかったようで、校長先生がわかりやすく解説をして助かりました。ネパールにもキツネに似た動物がいるとのことでしたが、私の誤算は、学校周辺では絵本にあるような雪景色は見られないことで、ネパールの冬は、山岳地域以外は乾季であることを忘れておりました。生徒たちには馴染みのない世界になつてしまいました。校長先生が人里に出てきた子キツネが、人間の母親の子守唄を聞いて、母キツネが恋しくなり戻っていくことを説明したら、「自分もお母さんが好き」「お母さんは歌ってくれる」などの共



カカニ・ブライター学校で、生徒たちに絵本の読み聞かせに挑戦してもらいました。（左から2人目が鎌倉さん）

感のことが出てきて、先生に感謝しました。11月22日はカカニ・ブライター学校で6年生のクラスで「かぐやひめ」を行いました。レカリより1年下なので心配しましたが、この生徒たちの方がよく読めて、ほとんど先生の助けなしで終えることが出来ました。絵を興味深そうに身を乗り出して見る生徒もあり、内容もかなり理解したようです。

「おじいさんが姫を育てるうちに金持ちになるのは、正直なきこりが金持ちになる噂と似ている」「月の兎（仏教説話）を思い出す」と言った感想が出て、「竹取物語」とはちょっと違うかな？と思いつつも、そういう声は大事にしました。両校の先生方にこのような読み聞かせをどう思うか尋ねてみたのですが、次の授業に向かつてしまい、聞き洩らしたのが残念でした。（東京都世田谷区）

学校でも図書室の充実が望まれていることから、生徒たちが本に親しむためのよい機会を作っていただきました。

ボランティアの皆さんを歓迎しています。ぜひ、参加してみたいかがでしようか。

ネパールの農業を考える

12月1日、東京大学のTORIサーチホールで、在日ネパール大使館の公使をはじめ、ネパールに熱い思いを寄せる人たちが参加して、ネパールの継続的な発展のために、日本のノウハウを活かして、その実現について考えることを目的に、講演会が行われました。

第二回目となる今回は「農業」をテーマとして、在日ネパール人研究者、経験者、大学の教授など様々な分野でネパールの農業に係わっている皆さんから発表がされました。

当日は、ジャイチもカカニ地区で広まったイチゴ栽培の取り組みやネパールの農業状況などを紹介させていただきました。

ネパールの梨に関心が

今回の講演会では、東京都稲城市にお住まいの川島實さんから大変興味深いお話がありました。

川島さんはナシやぶどうなどの果樹を長年栽培されており、現在も観光農園で活躍されています。

十数年前に、大学時代の

友人でもあった菊池健介さんの案内でジャイチが活動しているカカニの農場見学などでネパールを訪れた時のこと。

悪路で車のタイヤがパンクすると言うアクシデントに見舞われました。

車の修理が終わるまで、しばらくの時を過ごすことになりましたが、その周囲でナシの樹を目にしました。長年、果樹に接してきた川島さんの鋭い五感が働いたのでしょうか。



▶ネパールの山間地の道路沿いでもよく目にするナシの花

川島さんの話では、ナシは同じ品種や近い仲間の品種の花粉では受粉が悪く良い実がならないそうです。そのため、ナシを栽培する農家では、中国などから冷凍された花粉を使って受粉をしている方がほとんどだそうです。

◀ネパールのナシの花粉について語る川島實さん



この車のハブリングで目にしたネパールのナシの樹は、日本のナシの種類とは遠い品種になるため、交配するには最適ではないかと考えていました。

その数年後、再度ネパールを訪れ、このナシの樹を日本へ持ち帰り、植物防疫検査などの手続きを経て自分の農園で大切に育て、実際に交配をしたところ、予想どおりのよい結果で、生りの悪かった品種でもよく実が付くようになったとのこと。

輸入する花粉は10gで4,000円程と、果樹農家には大きな負担になるため、経費節約のためにもネパールのナシを各自の農園で用意できれば農家のためになるのではないかと、苗木づくりも行っているそうです。川島さんは、ネパールで

花粉を採取して日本の農家に提供できるようにできないかと、当時ネパールの人たちに投げかけたけれど反応が無かったとのことですが、需要とマッチすれば、ネパールの農民にとっても収入を上げることにつながるのではないかと提案がありました。参加者からも、実現性のある話として、多くの関心が寄せられていました。

「ひかり幼稚園」に学ぶ

カトマンズ市街地から東へ、インド方面に通じるハイウェイを車で1時間程の位置にあるバネパ市は、交通の要衝の地として、運輸関係で栄えてきたとの話のように道路沿いには高層建物が並び比較的裕福と思われる街の様相を呈しています。

このバネパ地域には、幼稚園が12園ほど開設されているようですが、そのひとつである「ひかり幼稚園」は、JICAでシニアボランティアも経験され、この幼稚園の開設に携わられた安達真弓さん（東京都）が10年ほど現地に滞在して運営してきた幼稚園で、2歳から小学校へ入学するまでの児童を受け入れています。

地域では、勤め人の家庭が多く入園希望に対応できないこともあるようですが、定員である100人で運営しています。園では、1クラス18人前後の児童が年齢別に5クラスに分かれて発達段階に応じた学習を行っていて、玄関では上履きに履き替えることや教室での整理整頓など生活習慣や絵を描く、剪纸で物づくりをする、また、歌いながら手遊びをするなどの情操教育も熱心に行っている様子でした。

訪問した日も園児たちが「チューリップ」や「ちようちよ」の歌を日本語で元気に歌ってくれました。

◀玄関では、ちゃんと上履きに履き替えるところから学びます



▲ひかり幼稚園の教室で、絵描きをしたり歌を歌って楽しく学んでいる園児たち

ネパールで本格的になりつつある幼児教育に、レカリ・バシフアント学校、カカニ・ブライター学校も先達の幼稚園に学んでいくことになっています。

一歩ずつ

ネパールを訪れるたびに少しずつ変わっている様子を感じます。

大地震で大きな傷あとを残した世界遺産でもあるカトマンズやパタン、バクタールの王宮広場の復旧は未だ大きな進展は見られませんが、車社会に対応するための道路や水路の整備がいたるところで行われていきます。そして、最も目についたゴミの散乱した光景が改善の方向に向かっており、ようやく環境への配慮が浸透してきたように思われます。

生活面でも、計画停電を行うようなことが無くなり、電力事情も安定しているようです。そのためあつてか、交差点に設置されてはいたものの、これまで点滅することのなかった信号機がこちらこちらで作動を始めました。

通行車両の中には、信号の色が変わっても慣れないのか、なかなか発進しない車があつたり、立ち往生しているバイクなどを見かけましたが、いずれ、警察官による交通整理から、信号機による通行体系に変っていくことでしょうか。

ようやく政府の機能が安定し、様々な取り組みが行われるようになって、一歩また一歩とネパールの国づくりのために力を注いでいる証拠とも言えます。

また次に訪れた時には、変わったネパールの姿に会えるかも知れません。



▲ようやく点灯を始めた信号機に戸惑う車の姿も

事務局だより

▼ジャイチ

- 7月
 - ・機関紙55号発送
 - ・役員登記
- 9月
 - ・国際交流フェスティバル in Saku 参加
- 11月
 - ・常務理事ネパールへ総合指導
- 12月
 - ・常務理事が在日ネパール人主催の会で講演
 - ・理事会開催平成30年度上半期事業報告等
 - ・機関紙56号企画・編集

バザーを

ありがとうございました。

- ・国際交流フェスティバル in Saku (長野県佐久市)

▼ジャイチネパール

- 7月
 - ・両校夏休みに入る
 - ・プライター学校で大雨の影響で閉校あり
- 8月
 - ・滝グループ学校の庭木の剪定・建物の塗装など実施
- 9月
 - ・プライター学校、パネバの光幼稚園と交流
 - ・大雨でバス運行困難な地域の生徒が1カ月ほど寮で生活。
- 10月
 - ・デザインとティハール祭休暇
 - ・レカリ学校、新2教室建設案・屋根の塗装
- 11月
 - ・プライター学校、ドイツのスタッフが女子のための健康衛生促進プログラムを実施。視力検査。
 - ・バシファント学校、教室の外壁塗装。
- 12月
 - ・カカニ農場をパネバの有機農業者と賃貸契約

第二十二回 JAITI ツアー 参加者募集

お知らせ

- ◆日程 11月初旬 7泊9日の予定
- ◆旅行代金 お一人様29万円の予定
- ◆交通費(航空機はエコノミークラス)、宿泊費、食事代を含みます。但し、日本国内の交通費と海外旅行保険は別途になります。
- ◆最小催行人員 10名
- ◆企画 ジャイチ
- ◆主催 (株)西遊旅行

ネパールへのジャイチの荷物(主に生徒用の文房具など)運搬のお手伝いをお願いくださる方、是非ご連絡ください。



書き損じハガキを送って下さい。未使用も歓迎。

年賀ハガキの書き損じ・余りも歓迎 (古いものもOKです) (切手に交換し、通信費に役立させていただきます。)(前回31,006円分の切手と交換できました)

集めています

収集品	使 途	
文房具	定規・鉛筆など	学校生徒用
バザー用品	小物(未使用のもの)	ネパールの学校の運営費
毛 糸	帽子を編みます	レカリ・バシファント学校1・2年生用
	編みぐるみ・タワシなどのバザー用品をつくります	
日本手拭・タオル	未使用のもの	ネパールの学校用ほか
使用済切手	換金します(未使用切手も歓迎)	ネパールの学校の運営費(切手の周りを5ミリ残してください)
	使用済切手につきましては、寄付品協力欄にお名前を掲載しまして、謝意を表します。	

物故者のお知らせ

ご冥福をお祈りしますと共にこれまでのご支援に感謝申し上げます。

- 菱田 一雄様・敏子様 東京都目黒区 十一年
- 串田 幸久様 神奈川県相模原市 十三年
- 小林 信子様 茨城県龍ヶ崎市の 十七年七月
- 丸山 正捷様 群馬県高崎市の 十八年八月
- 田中 成幸様 群馬県高崎市の 十八年十月
- 室賀 欣一様 長野県上田市の 十八年十一月
- 井出 正義様 長野県上田市の 十八年十一月
- 小嶋 英毅様 兵庫県篠山市 十八年十一月

編集後記

「やっぱりだめかー」年末にため息を漏らした人のなんと多いことか。自分もそのうちの一人なのだけれど。宝くじ売り場のお姉さんの「どうか当りますように」の優しい言葉に淡い期待をしながら、やれ、神棚がいいだの、壺の中がいいだの言われて、あつちへ置いたり、こちへ移してみたり。

当たったら、あれもこれもと想像はしきりに頭の中を駆け巡り、まず、JAITIに寄附をして、それから...。まだ、ん億円残るから...。そんな日が早く来ないかと、また、売り場に足を運ぶからです。あーシブア神さまあ